

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県において医療的ケア児等コーディネーターが行う未就園児の家族支援における課題				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	藤田 景子
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美

講演題目	
静岡県において医療的ケア児等コーディネーターが行う未就園児の家族支援における課題	
研究の目的、成果及び今後の展望	
<p>研究目的</p> <p>日本における乳児死亡率は低下を辿り、2020年には過去最低の1.8%となるなど、世界的に見ても高水準を維持している。一方、医療ケアを必要としながら生活する医療的ケア児の推計総数は増加し、2008年の約1万人から2018年には約2万人となった。しかし、医療的ケア児は医学の進歩を背景とした新しい判定基準を設けているため、身体障害者手帳等から定期的に把握することができず、各地域において把握するための統一的な調査方法が確立されていない。また、2020年の医療的ケア児者と家族の生活実態調査報告書によると、子どもが0～2歳の場合、他の年齢区分と比較すると家族の課題や不安、悩みが顕著に多く、各種のサービス内容や利用についての知識不足、相談に乗ってくれる人がいないという課題もある。このような中、2021年9月に「医療的ケア児等及びその家族に対する支援に関する法律」が制定され、医療的ケア児者家族の支援体制を統合調整する医療的ケア児等コーディネーター（以下コーディネーター）の育成が開始された。しかし、コーディネーターに関する調査は活動報告が多く、コーディネーターが行う家族支援や認識する課題については、ほとんど明らかにされていない。そこで、本研究では、静岡県において医療的ケア児等コーディネーターが行う未就園児の家族支援における課題について明らかにすることを目的とした。</p> <p>成果および今後の展望</p> <p>研究協力者のリクルート方法を検討するため、地域におけるコーディネーター配置状況の確認を試みた。静岡県では、2018年より養成研修を開始しているが、輩出したコーディネーターの総数や所在については明らかにされていない。まず、静岡県医療的ケア児等支援センターに連絡し、静岡県内の施設および事業所におけるコーディネーターの配置状況を伺ったが、未把握と回答があった。そこで、2022年12月に中部地区7市町の障害福祉担当者に連絡し、各市町内の施設および事業所におけるコーディネーターの配置状況について伺ったところ、中部地区には10カ所の施設および事業所があることを確認できた。本研究では、研究協力者を6名と設定しているため、施設および事業所への直接的なリクルート方法に加え、機縁法も用いたリクルート方法を用いることとした。2022年2月に研究倫理審査委員会および学長承認を得られたため、今年度は3カ所の事業所を訪問し、研究協力者のリクルートを開始した段階である。本研究を行うことにより、地域における医療的ケア児者家族支援ネットワーク構築のための知見を得ることができると考える。</p>	